



憲法が輝く兵庫県政をつくる会
第3号 2011年7月20日
メール: Info@kenpo-kensei.com
ブログ: 「憲法どおりの兵庫を!」 検索

阪神間 福井原発80~100km

脱原発は県民の声

運転再開の中止を求めない井戸知事 自然エネルギーへの転換を



関西電力美浜原子力発電所
(上)、下水処理施設を利用した発電 垂水区(右)



「原発災害」は、いまも被害を拡大しつづけています。いま日本には、「人権の復興」を最優先した震災復興とともに、原発依存型からのエネルギー政策の転換が求められています。

「原発反対」の世論は明確
原発についての国民世論は、「原子力発電を段階的に減らして将来はやめる」ことに賛成74%、反対11%(朝日新聞6月11、12日)、「定期検査のため停止している原発の運転再開」に反対51%、賛成の37%(毎日新聞7月2、3日)など大きく変化してきています。

活断層に集中する福井原発
全国一多い15基の原発が集中している福井原発(美浜、敦賀、高浜、大飯)は、兵庫県から80~100キロ圏内にあります。しかも活断層の集中地帯に立地し、その半数が30年を超える老朽原発です。多くの学者は、地震で危険なのは浜岡原発について敦賀だと指摘しています。

しかし、福井県知事が再稼働を認めないとしているのに対し、井戸知事は「原子力発電の安全性が確保されるかどうか」、検証のうえで判断されるべき」と運転再開中止を求めない態度です。自然エネルギー事業への助成拡大を

【学習会のご案内】
「原子力から再生可能エネルギーへ」(仮題)
日本環境学会会長
和田 武氏
日時: 8月27日(土)
午後1時30分
会場: 神戸市勤労会館
資料代: 500円

福井県原発視察(6月15日)に参加して
電力労働運動近畿センター 高馬士郎
一日目は、敦賀の福井県原子力環境監視センターを見学後、美浜原発PRセンターで、所長から福島原発後の対策を聞く。宿泊所で佐藤正雄福井県議から県議会や知事の態度について聞き懇談。私も自作のパワーポイント「原子力から自然エネルギーへ」を説明し好評でした。
二日目は、高速増殖炉「もんじゅ」の見学。模型を見ると配管類は加圧水型炉以上に複雑で、想定以上の地震が心配。午後は、小浜で国宝「明通寺」の住職である中島哲演さんから、永年にわたる若狭の原発反対運動について聞き、「東京や大阪などの大都会に電気を送る為に、若狭や福島がどれだけの犠牲を払ってきたか、都会の労働者がしつかりと受け止めてもらいたい」と話されました。それを心に刻み今回の行動を終わりました。

のり(憲)のり(法)コラム



原発問題を青年と考えようと、シールアンケートに取り組んでいます。時には人だかりも出来るほどの盛況。「原発はこわい」「自然エネルギーが理想」「すぐにはなくせないんじゃないか」「自然エネルギーがあればいいけど今はないから原発に頼ってるんでは?」「自然エネルギーはコストがかかる」。様々な意見が出され、これからどうしたらいいのかを真剣に考えているのがよくわかります。
中学生集団の一人が「原発は現状維持」にシールを貼り、「いまは原発に頼っているし、他の電力はないし」と話しているとき、別の一人が「なに、真剣にしゃべってるねん」と茶化してきました。すると、その男の子は、「俺は真剣にしゃべりたいねん!」。
まじめなことを話さずだけで、からかわれるんなあ……。その中でも真剣に模索している青年たちと一緒にもっと考えていきたいと思えます。(R)

人が生きる「復興」をめざして

被災地を訪ねて想ったこと

兵庫労連事務局長 北川 伸一

6月12日から14日までの3日間、阪神・淡路大震災救援・復興兵庫県民会議の岩手・宮城への調査活動に参加しました。

調査団は、陸前高田市を皮切りに、宮古市田老地区、南三陸町、女川町、仙台市太白区、名取市閑上地区、山元町

を訪ね、16年前の神戸で毎日のように「がれきの街」を見て暮らしてきましたが、それはまた違った惨状を目の当たりにしました。

この調査活動は、地元の日本共産党県議や県委員会の方々のご尽力により、マスコミ情報だけではわからない貴重なお話を聞くことができ、充実したものとなりました。それは、被災地住民のための「復興」を、と寝食を忘れご奮闘されている各地域で中心となつてい



陸前高田市の戸羽市長（中央）と懇談

首長、地元市議・町議、漁業組合長・運営委員長、復旧・復興支援みやぎ県民センター代表世話人及び事務局の方々、町内会会長、元町長などと懇談し、救援活動の大変さ、「復興」への思いを語っていただき、その思いが実現できるように支援しなければならぬと強く感じま



津波で全壊した岩手県立高田病院

とりわけ印象に残っているのは、陸前高田市の戸羽市長の言葉です。「被災地の声が反映されない『復興』はありえない。国のスピードが遅いが、それは『東北だからではないか』と最近思っている。東京や大阪で起こればこんなスピードでは済まされないだろう。しかし多くの方々と協力し、被災者の立場・視点で復興を進めていきたい」。

被災地の一刻も早い「復興」を願うとともに、「阪神・淡路」を経験した兵庫から、「復興県民会議」を軸としながら、共同の力で運動を進めていかなければと決意を新たにしています。



2013年知事選挙へ

秋の臨時総会開催を決定

「憲法県政の会」第6定期総会

「憲法県政の会」は、5月11日に第6定期総会を開き、2013年知事選挙にむけ、秋に基本戦略を決める臨時総会を開催することを決定しました。

また総会では、「原発問題とエネルギー問題」についての特別報告の他、加入団体からそれぞれの運動分野での要求実現の実績や取り組みが報告されました。

地域の会からは日常化の努力などが語られ、「憲法県政の会」を知らせる活動の強化も呼びかけられました。



7割がくらし向きが悪くなった 県民アンケート結果
「会」のアンケートは、1200人にご協力頂きました。
7割の方が「2、3年前に比べくらしが悪化」と答え、国、県の政治がくらしを直撃していることを示しています。また、「くらし圧迫の原因」（複数回答）では、3割以上の方が「税金高い」「国保高い」「年金少ない」「介護保険高い」「医療費高い」を挙げています。
福祉後退の政治が直撃していることがわかります。今後の政策活動に生かしていきます。

「憲法県政の会」ブログより

脱原発を願う人の詠める新「百人一首」(7/4)

ちはやぶる 神代もきかず 原発に
からくりあると 地図染めむとは
忍ぶれど 色にいでにけり 危ふしは
何シーベルトと 人の問ふまで
あしひきの 山鳥の尾の しだり尾の
ながながしい訳 聞きたくもなし
しらをきり どころ吹きあれる 総会で
つらぬきとおす 原発稼働